土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニケーション小委員会
第 10 回小委員会　議事禄

１．日時：2023 年 1 月 11 日（水）13:00-15:10
２．場所：Zoom によるオンライン会議
３．出席者：奈良委員長、桑垣委員、武田委員、中村委員、堀口委員、松村幹事長、蛯沢原子力土木委員会委員（オブザーバ）
４．資料
資料１　第 9 回リスクコミュニケーション小委員会議事録（案）（松村幹事長）
資料２　原子力安全設計における専門家・技術者とリスクコミュニケーション　―土木学会原子力土木委員会を対象としたデルファイ調査―、日本リスク学会年次大会 2022 口頭発表資料（桑垣委員）
資料３　リスクコミュニケーション小委員会　活動状況と今後の予定（松村幹事長）

５．議事要旨
前回の小委員会の議論を踏まえて、論文修正の進捗を確認するとともに、インタビュー調査の対象や実施方法について意見交換を行った。また、原子力学会リスク部会へのデルファイ調査のスケジュールを確認した。さらには次期の活動についても議論を行った。
論文については、原子力土木委員会としての研究の位置づけの明確化、先行研究としての計画学の知見の参照、考察部分のより詳細な分析と委員会としての取り組みへの示唆などを追記する方針であることを確認した。委員会への情報発信については、報告書としてのとりまとめの方向性（本文数ページ、資料として学会発表スライドやリスク部会説明会資料等を添付）を確認した。インタビュー調査については、必要な属性の項目を設定し、これらを網羅する方々を対象とすること（人数は 20 名程度)、委員がインタビュアーとなることを基本とすることなどの案が出され、7 月以降の実施を目指して、十分に時間をかけて実施方法を議論することとした。原子力学会リスク部会へのデルファイ調査については、年度内に第 3 回調査の回収できる見込みであることを確認した。次期の活動については、原子力学会へのデルファイ調査の分析やインタビュー調査の実施・分析、原子力土木委員会のデルファイ調査との相互比較などの検討を、引き続き、フェーズを変えた小委員会において実施していく方向とした。
なお、幹事会（1/13）資料についても確認を行った。小委員会の活動概要、活動成果例としてのリスク学会発表資料、そして、次期の提案書を資料として提出することとした。

6. 今後の予定
論文については著者の先生方が中心となって修正・確認を進め、学会へ投稿する。4 月を目途に次回小委員会を開催する。それまでに委員会報告書の目次構成やドラフト案の作成

を進める。また、実査完了の時期にもよるが、原子力学会へのデルファイ調査のデータ整理を進める。さらに、2023 年 7 月からの次期小委員会で実施することとなるインタビュー調査について、今期小委員会で具体的作業（調査対象者の属性と選定方法の検討、実査の形態と回数の検討、インタビューガイドの作成など）にかかる準備に着手する。

以上